

肺がんサバイバーを対象とした術後健康関連 QOL の早期回復遅延要因を探索するための実証的研究

1. 研究の対象

- ・ 年齢が 60 歳以上 75 歳未満の方
- ・ 2021 年 (4 月) ~2022 年 3 月に当院で肺がんと診断されて手術予定の方

2. 研究目的・方法

外科的手術後の症状や生活状況は、患者さんの状態によって大きく異なることがわかってきました。今まで体力を向上させることが目的だったリハビリだけでなく、術後の生活のこと、気持ちの持ちようなどを患者様自身が学ぶことが、生活の質を向上させる第 1 歩であると我々は考えています。そこで本研究は、手術前と手術後の心身機能をしらべることで、どういったことが術後の生活の質に影響しているかを検証したいと思います。

本研究は、患者様から同意をいただいた後、大阪国際がんセンターで以下の内容と手順で受けていただきます。

【測定項目】

- 筋力検査 (握力、膝を伸ばす筋力)
- 持久力テスト (6 分間歩行テスト)
- アンケート (生活の質・ヘルスリテラシーなど)

【測定時期】 入院中：①手術前と②退院のとき

退院後：③術後 1 ヶ月の診察日

計. 3 回

【必要時間】 各 20 分~30 分程度で終了します

3. 研究に用いる情報の種類

カルテからの情報：年齢、性別、身長、体重、病歴、治療歴、術式、切除部位等の手術に関わる情報、血液データ、呼吸機能検査、喫煙歴等

4. 外部への情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

研究代表者：阿波 邦彦・理学療法士・奈良学園大学 保健医療学部 准教授

研究責任者：伊藤 公美子・理学療法士・大阪国際がんセンターリハビリテーション科

研究分担者：

- ・池田 聖児・理学療法士・大阪国際がんセンター リハビリテーション科 総括主査
- ・鈴木 昌幸・理学療法士・大阪国際がんセンター リハビリテーション科
- ・加藤 祐司・理学療法士・大阪国際がんセンター リハビリテーション科
- ・木下 翔太・理学療法士・大阪国際がんセンター リハビリテーション科
- ・小菅 友里加・理学療法士・大阪国際がんセンター リハビリテーション科
- ・中橋 玲那・理学療法士・大阪国際がんセンター リハビリテーション科
- ・相田 利雄・理学療法士・大阪国際がんセンター リハビリテーション科
- ・富士 佳弘・理学療法士・大阪国際がんセンター リハビリテーション科
- ・田宮 大也・医師・大阪国際がんセンター リハビリテーション科
- ・岡見 次郎・医師・大阪国際がんセンター 呼吸器外科

研究協力者：堀江 淳・理学療法士・京都橘大学 健康科学部 教授

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、理学療法評価・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター リハビリテーション科 伊藤 公美子
住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69
電話：06-6945-1181

研究責任者：大阪国際がんセンター リハビリテーション科 伊藤 公美子

研究代表者：奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 阿波 邦彦

-----以上